資治通鑑 第 110 巻

令和３年１２月２４日

【晉紀三十二】　著雍閹茂，一年。

■東晉、●北魏、▲後燕、続国訳漢文大成．経子史部 第 7 巻 023p

安皇帝乙隆安二年（戊戌，３９８年）

【慕容徳の南燕自立】

▲［慕容徳は滑臺に移る］春，正月，燕の范陽王の**徳**は鄴より戸四萬を帥いて南に滑台に徙る。魏の衛王の**儀**は鄴に入り，其の倉庫を収め。**徳**を追いて河に至り，及ばず。

南燕［慕容徳は即位、南燕成立］趙王の**麟**は尊號を**徳**に上（たてまつ）り，**徳**は兄の**垂**の故事（105 巻孝武帝太元九年にあり）を用い，燕王を稱し，永康三年を改めて元年と為し，統府（諸方鎮は燕の統府が統括）を以て帝制（制を称するして以て事を行う）を行い，百官を置く。趙王の**麟**を以て司空と為し、尚書令を領せしめ，**慕容法**を中軍將軍と為し，**慕輿拔**を尚書左僕射と為し，**丁通**を右僕射と為す。**麟**は復た反を謀り，**徳**は之を殺す。

●［魏は王憲を得て喜ぶ］庚子（７日），魏王の**珪**は中山より南に巡りて高邑（現・石家荘市高邑県）に至り，**王永**之子の**憲**を得て，喜んで曰く、

「**王景略**（王猛）之孫也。」

以て本州の中正（王猛は青州北海劇県の人）と為し，選曹（吏部尚書）の事を領し，兼ねて門下（侍中常侍給事黄門）を掌（つかさどら）しむ。鄴に至り，行台を置き，**(7-024p)** 龍驤將軍の日南公の**和跋**を以て尚書と為し，左丞の**賈彝**と吏兵の五千人を帥いて鄴に鎮ぜしむ。

●［魏は中山から代に道を作る］**珪**は鄴より中山に還り，將に北に歸らんとし，卒萬人を發して直道を治せしむ，望都（直隷省保定道望都県、現・河北省保定市）より恆嶺を鑿ちて代へ至る五百餘里（曲陽を経る）なり。**珪**は己の既に去りて，山東に變有るを恐れ，復た行台を中山に置き，衛王の**儀**に命じて之に鎮ぜしむ。撫軍大將軍の略陽公の**遵**を以て尚書左僕射と為し，勃海之合口（直隷省津海道滄県、現・滄州市滄県）に鎮ぜしむ。右將軍の**尹國**は租を冀州を督し，**珪**の將に北に還らんとするを聞き，信都を襲わんと謀る；安南將軍の**長孫嵩**は**國**を執り，之を斬る。

▲［慕容農の意見で南征をとどまる］燕の**啟倫**（啟崙に作るべし、去年寶は形勢を觀させる）は還りて龍城に至り，

「中山は已に陷る」

と言う。燕主の**寶**は命じて兵を罷めしむ。遼西王の**農**は**寶**に言って曰く、

「今遷都して尚ほ新たなり，未だ南征す可からず，宜しく成師に因りて**庫莫奚**を襲い，其の牛馬を取りて以て軍資に充て，更に虛實を審（つまびら）かにし，明年を俟ちて而して之を議さん。」

寶は之に從う。己未（２６日），北に行く。庚申（２７日），澆洛水（熱河赤峯県の北、内モンゴル自治区赤峰市）を渡る。南燕王の**徳**は侍郎の**李延**を遣わして**寶**の詣るに會して，言う、

「**涉珪**は西上（中山より恒嶺を通り雲代に帰る）し，中國は空虛なるかな。」

延は**寶**を追いて之に及び，**寶**は大いに喜び，即日引いて還る。

●［魏王の珪は代に徙民］辛酉（２８日），魏王の**珪**は中山を發し，山東の六州の吏民雜夷十餘萬口を徙し以て代を實（み）たす。博陵、勃海、章武（郡、晉の時に渤海郡を分ける）の群盜は並びて起ち，略陽公の**遵**等は討ちて之を平らげる。

南燕［賀賴盧は南燕に帰属］廣川（郡、渤海郡を分ける）太守の**賀賴盧**は，性は豪健，冀州刺史の**王輔**之下に

居るを恥じ，**輔**を襲い，之を殺し，守兵を驅勒し，陽平、頓丘（直隷省大名道清豊県、現・河南省濮陽市清豊県）の諸郡を掠し，南に渡河し，南燕に奔る。南燕王の**德**は賴盧を以て并州刺史と為し，廣寧王に封じる。

西秦［西秦は後涼に侵攻］西秦王の**乾歸**は**乞伏益州**を遣わして涼の支陽（甘粛省甘涼道平番県、現・蘭州市永登県）、鶻武（甘粛省西寧道）、允吾（甘粛省蘭山道阜蘭県、現・蘭州市皋蘭県）の三城を攻め，之に克ち，萬餘人を虜として而して去る。

【慕容宝は無理な出陣で瓦解】

▲［燕主の寶は龍城から出陣］燕主の**寶**は龍城（先祖の墓がある）宮に還り，諸軍に詔して頓に就かしめ，罷め散ずるを聽さず，文武將士は皆な家屬を以て駕（車駕）に隨がわしむ。遼西王の**農**、長樂王の**盛**は切に諫め，以て為す、

「兵は疲れ力は弱く，魏は新たに志を得，未だ與に敵す可からず，宜しく且（しばら）く兵を養いて釁を觀ん。」

寶は將ら之に從わんとする。撫軍將軍の**慕輿騰**は曰く、

「百姓は與に成を樂しむ可く，與に始めを圖り難し。今師衆は已に集まり，宜しく獨り聖心を決し，機に乘りて進取すべし，宜しく廣く異同を采りて以て大計を沮むべからず。」

寶は乃ち曰く、

「吾（はかりごと）計を決せん矣，敢えて諫める者は斬らん！」

二月，乙亥（１３日），**寶**は出でて頓に就き，**盛**を留めて後事を統べしむ。己卯（１７日），燕軍は龍城を發し，**(7-025p) 慕輿騰**は前軍と為り，司空の**農**は中軍と為り，**寶**は後軍と為り，相い去ること各々一頓（３０里），營を連ねて百里なり。

▲［慕容宝・農は征役を拒否する兵の反乱で瓦解、龍城に帰る］壬午（２０日），**寶**は乙連（熱河道朝陽県の西、卜羅尺付近か）に至り，長上の**段速骨**、**宋赤眉**等は衆心之の征役を憚るに因りて，遂に亂を作（な）す。**速骨**等は皆な高陽王の**隆**の舊隊にして，共に**隆**の子の高陽王の**崇**を立てて主と為すを逼り，樂浪の威王の**宙**、中牟の熙公の**段誼**及び宗室の諸王を殺す。河間王の**熙**は素より**崇**と善し，**崇**は之を擁佑（廻りから助ける）し，故に獨り免かるるを得る。燕主の**寶**は十餘騎を將いて司空の**農**の營に奔り，**農**は將に出でて迎えんとし，左右は其の腰を抱え，之を止め，曰く、

「宜しく小しく清澄すべし，便ち出る可からず。」（形勢觀望して収まるのを待つべしの意）

農は刀を引いて將に之を斫らんとし，遂に出でて**寶**を見，又た信（使い）を馳せて**慕輿騰**を追う。癸未（２１日），**寶**、**農**は兵を引いて還りて大營に趣き，**速骨**等を討つ。**農**の營の兵は亦た征役を厭い，皆な仗を棄てて走り，**騰**の營も亦た潰ゆ。**寶**、**農**は奔りて龍城に還る。長樂王の**盛**は亂を聞き，兵を引いて出でて迎え，**寶**、**農**は僅かに而して免かるるを得る。

■［會稽王の道子の警戒］會稽王の**道子**は**王**、**殷**之逼るを忌み，譙王の**尚之**及び弟の**休之**が才略有るを以て，引いて腹心と為す。**尚之**は**道子**に說いて曰く、

「今方鎮は強盛にして，宰相の權は輕し，宜しく密かに腹心を外に樹てて以て自ら籓衛すべし。」

道子は之に從い，其の司馬の**王愉**を以て江州刺史と為し，江州及び豫州之四郡軍事を都督せしめ，用いて形援と為し，日夜**尚之**と謀議し，以て四方之隙を伺う。

●［魏の徙民政策］魏王の**珪**は繁畤宮（山西省雁門道繁畤県、現・忻州市繁峙県）に如き，新しき徙民に田及び牛を給す。**珪**は白登山（平城の東 17 里、山西省雁門道大同県、現・大同市運州区城東 20km）に於いて畋し，熊の數子を將

いるを見，冠軍將軍の**於**（続は于）**栗磾**に謂って曰く、
「卿は勇健を名のる，能く此れを搏(う)たん乎？」
對えて曰く、
「獣は賤しく人は貴し，若し搏ちて而して勝たざれば，豈に虚しく一壯士を斃すにあらず乎！」
乃ち驅けて**珪**の前に致り，盡く射て而して之を獲る。**珪**は顧みて之を謝す。秀容川（山西省雁門道朔県、現・朔州市朔城区）の酋長の**爾朱羽健**(にしゅ)は**珪**に從いて晉陽、中山を攻めて功有り，散騎常侍に拜して，其の居る所に還り，地三百里を割きて以て之に封じる。柔然は數々魏邊を侵し，尚書中兵郎の**李先**は之を擊つを請い。**珪**は之に從い，大いに柔然を破りて而して還る。

南涼［禿髪烏孤は楊軌を支援］**楊軌**は其の司馬の**郭緯**を以て西平相と為し，歩騎二萬を帥いて北に**郭□**（麻の下に香、トン）に赴かしむ。**禿髪烏孤**は其の弟の車騎將軍の**辱檀**を遣わして騎一萬を帥いて**軌**を助けしむ。**軌**は姑臧に至り，城北に營す。

【蘭汗が慕容宝を殺害】

▲［蘭汗と段速骨が組んで城内大混乱、慕容農誅される］燕の尚書の頓丘王の**蘭汗**は陰かに**段速骨**等と通謀し，兵を引いて東城之東に營す。城中の留守の兵は至りて少なく，長樂王の**盛**は内に近城之民を徙し，丁夫萬餘を得，城に乘りて以て之を御(ふせ)（続は禦）ぐ。**速骨**等の同謀は才(わずか)に百餘人，餘は皆な驅脅(くきょう)する所為(た)り，鬥志(とうし)有るもの無し。三月，甲午（２日），**速骨**等は將に城を攻めんとし，遼西の桓烈王の**農**は守る能わざるを恐れ，且つ**蘭汗**の誘う所と為り，夜，潛かに出でて之に赴き，以て自ら全うせんを冀(こいねが)う。明くる旦，**速骨**等は城を攻め，城上は戰を拒むこと甚だ力し，**速骨**之衆の死者は百を以て數う。**速骨**は乃ち**農**を將いて城を循(めぐ)り，**農**は素より忠節の威名有り，城中之衆は恃みて以て強しと為し，忽(たちま)ち城下に在るを見，驚愕して氣を喪わざる無く，遂に皆な逃潰す。**速骨**は入城し，兵を縱ちて殺掠し，死する者狼籍たり。**寶**、**盛**と**慕輿騰**、**餘崇**、**張真**、**李旱**、**趙恩**等は輕騎にて南に走る。**速骨**は**農**を殿内に幽（幽閉）す。長上の**阿交羅**は，**速骨**之謀主也，高陽王の**崇**が幼弱なるを以て，更に**農**を立てんと欲す。**崇**の親信の**醜讓**(そうじょう)、**出力犍**等は之を聞き，丁酉（５日），**羅**及び**農**を殺す。**速骨**は即ち之が為に**讓**等を誅す。**農**の故吏の左衛將軍の**宇文拔**は亡げて遼西に奔る。

▲［蘭汗は速骨を殺し、宝を迎えるも、応じず］庚子（８日），**蘭汗**は**速骨**，並びに其の黨を襲擊し盡く之を殺す。**崇**を廢し，**太子**の**策**を奉じ，製（続は制）を承け大赦し，遣使して**寶**を迎え，薊城に及ぶ。**寶**は全くして還らんと欲し，長樂王の**盛**等は皆な曰く、
「**汗**之忠は詐りか未だ知る可からず，今單騎にして之に赴けば，萬が一にも**汗**に異志有れば，之を悔いても及ぶ無し。南に**范陽王**に就くに如かず，衆を合わせて以て冀州を取らん。若し其の捷たざれば，南方之衆を收めて，徐(おもむろ)に龍都に歸るも，亦た未だ晩(おそ)からず也。」
寶は之に從う。

●離石の胡帥の**呼延鐵**、西河の胡帥の**張崇**等は代に徙るを樂しまず，衆を聚めて魏に叛し，魏の安遠將軍の**庾岳**は討ちて之を平らげる。

●魏王の**珪**は衛王の儀を召して入り輔けしめ，略陽公の**遵**を以て代りて中山に鎮せしむ。夏，四月，壬戌（１日），征虜將軍の**穆崇**を以て太尉と為し，安南將軍の**長孫嵩**を司徒と為す。

▲［燕主の寶は南下して南燕王徳を頼る］燕主の**寶**は間道に從いて鄴を過ぎ，鄴人は留まるを請い，**寶**は許さず。南に黎陽に至り，河西に伏し，中黄門令の**趙思**を遣わして北地王の**鐘**に告げて曰く、

「**上**は二月を以て丞相（慕容徳の司徒と為すが故）の表を得，即時に南征して，乙連に至り，長上の作亂に會して，據を失いて此に來たる。王は亟（すみやか）かに丞相に白（もう）して奉迎せよ！」
鐘は，**徳**之従弟也，首として**徳**に尊號を稱するを勸めるに，聞きて而して之を惡み，**思**を執りて獄に付け，狀を以て南燕王の**徳**に白す。**徳**は群下に謂って曰く、
「卿等は社稷の大計を以て，吾に攝政を勸める。吾は亦た**嗣帝**は播越（遠く逃れて）して，民神乏主に乏しきを以て，故に權（かり）に群議に順い以て衆心を系（つな）ぐ（続は繋）。今天は方に禍いを悔い，**嗣帝**は還るを得たり，吾は將に法駕を具して奉迎し，行闕（行宮）に謝罪せんとす，何如か？」
黄門侍郎の**張華**は曰く、
「今天下は大亂し，雄才に非ざれば以て群生を寧濟する無し。**嗣帝**（慕容宝）は暗懦にして，先統を紹隆する能わず。**陛下**が若し匹夫之節を蹈み，天授之業を捨てれば，威權一たび去りて，身首は保たず，況んや社稷は其の血食するを得ん乎！」
慕輿護は曰く、
「**嗣帝**は時宜に達せず，國都を委棄し（前巻前年にあり），自ら敗亡を取り，多難に堪えざるは，亦た已に明らか矣。昔**蒯聵**は出奔し，**（7-027p）衛輒**（えいちょう）納れず，《春秋》は之を是とする。子を以て父を拒むも猶ほ可なり，況んや父を以て子を拒むを乎！今**趙思**之言は，未だ虚實明かならず，臣は**陛下**の為に馳せ往きて之を詗（うかが）わんを請う。」
徳は流涕して之を遣わす。（流涕するは寶を殺さしめんと欲す故なり）
▲<u>［趙思は慕容徳の誘いを断る］</u>**護**は壯士數百人を帥いて，**思**に隨いて而して北し，迎え衛ると聲言するも，其の實は之を圖む。**寶**は既に**思**を遣わして**鐘**に詣らしめ，後に於いて樵者を得る，言う、
「**徳**が已に稱制す」，
懼れて而して北に走る。**護**は至り，見る所無く，**思**を執りて以て還る。**徳**は**思**が典故を練習するを以て，留めて而して之を用いんと欲す。**思**は曰く、
「犬馬は猶ほ主を戀いるを知る，**思**は刑臣（宦官）と雖も，還りて**上**（寶）に就くを乞う。」
徳は固く之を留め，**思**は怒りて曰く、
「周室は東遷し，晉、鄭是に依る。**殿下**は親は則ち叔父にして，位は上公為（た）り，群后に帥先して以て帝室を匡す能わず，而して本根之傾くを幸いとして，趙王**倫**之事を為す，**思**は**申包胥**（呉が楚を破り郢に入るや、楚の申包胥は帥を秦に乞いて、遂に呉の帥を破り、楚の昭王のために國を復す）が之れ楚を存するが如くなる能わずと雖も，猶ほ**龔君賓**（龔勝、字は君賓、巻 37 王莽始建国３年にあり）が生を**莽**（王莽）の世に偸（ぬす）まざれしを慕うなり也！」
徳は之を斬る。
▲<u>［慕容盛が諫めるも、宝は蘭汗に行く］</u>**寶**は扶風の忠公の**慕輿騰**を遣わして長樂王の**盛**と兵を冀州に收めしめ，**盛**は**騰**が素より暴横にして，民の怨む所と為るを以て，乃ち之を殺す。行きて巨鹿に至り、**長樂**（慕容盛）は，諸豪傑を說き，皆な兵を起こして**寶**を奉じるを願う。**寶**は**蘭汗**が燕の宗廟を祀り，為す所順に似たりを以て，意（こころ）に龍城に還らんと欲し，肯えて冀州に留まらず，乃ち北に行く。建安（直隷省津海道遷安県、現・唐山市遷安市）に至り，**民張曹**の家に抵る。**曹**は素より武健にして，**寶**の為に衆を合わせるを請い，**盛**は亦た**寶**に、
「宜しく且く駐留し，**汗**の情狀を察するべし」
と勸む。**寶**は乃ち冗從僕射の**李旱**を遣わして先ず往きて**汗**を見しめ，**寶**は留りて石城（直隷省津海道灤県、現・唐山市灤州市）に頓す。**汗**は左將軍の**蘇超**を遣わしての奉迎せしめ，**汗**の忠款を陳ずに會す。**寶**は**汗**は燕王

の**垂**之舅にして，**盛**之妃の父也を以て，必ず它無しを謂い，**旱**の返るを待たずして，遂に行く。**盛**は流涕して固く諫め，**寶**は聽かず，**盛**を留めて後に在り，**盛**は將軍の**張真**と下道より避匿す。

▲［慕容宝の龍城入城、蘭汗は誅殺する］丁亥（２６日），**寶**は索莫汗陘（熱河道朝陽県の東）に至り，龍城を去ること四十里，城中は皆な喜ぶ。**汗**は惶怖し，自ら出でて罪を請わんと欲し，兄弟は共に之を諫止す。**汗**は乃ち弟の**加難**を遣わして五百騎を帥いて出迎え，又た兄の**堤**を遣わして閉門して仗を止め，人の出入を禁ず。城中は皆な其の將に變と為るを知り，而して之を如何する無し。**加難**は**寶**を陘北に見，已に拜謁し，**寶**に従いて俱に進む。穎陰の烈公の**餘崇**は密かに**寶**に言って曰く、

「**加難**の形色を觀るに，禍變は甚だ逼らん，宜しく留まり三思すべし，奈何して徑ちに前むか！」

寶は從わず。行くこと數里，**加難**は先ず**崇**を執り，**崇**は大呼して罵りて曰く、**(7-028p)**

「汝の家は幸いにも肺腑（親戚）に緣り，國の寵榮を蒙り，宗を覆し（國の為に盡して一族を滅ぼすとも、國恩に報ゆるに足らず）以て報いるに足らず。今乃ち敢えて簒逆を謀る，此れ天地の容れざる所，計るに旦慕即ち屠滅せられ，但だ我は手ずから汝曹を膾（ひき肉）にするを得ざるを恨む耳！」

加難は之を殺す。**寶**（44 歲）を引いて龍城の外邸に入り，之を弑す。**汗**は**寶**に謚して**靈帝**と曰い，**獻哀**（字）**太子**の**策**及び王公卿士百餘人を殺し，自ら大都督、大將軍、大單于、昌黎王と稱し，改元して青龍とす。**堤**を以て太尉と為し，**加難**を車騎將軍と為し，河間王の**熙**を封じて遼東公と為す，杞、宋（周の武王は夏の後に杞、殷の後に宋を封じる）の故事の如し。

▲［蘭汗は長樂王の盛を生かす］長樂王の**盛**は之を聞き，馳せて哀（喪）に赴かんと欲す。**張真**は之を止める。**盛**は曰く、

「我は今窮を以て**汗**に歸す。**汗**は性は愚にして淺し，必ず婚姻を念い，我を殺すに忍びず。旬月之間，以て吾が情志を展ぶるに足らん。」

遂に往きて**汗**を見る。**汗**の妻の**乙氏**及び**盛**の妃は皆な泣涕して**盛**を**汗**に請い，**盛**の妃は復た諸兄弟に頓頭す。**汗**は惻然として之を哀れみ，乃ち**盛**を宮中に捨（続は舍）し，以て侍中、左光祿大夫と為し，親しく待すこと舊の如し。**堤**、**加難**は屢々**盛**を殺さんと請い，**汗**は從わず。**堤**は驕很荒淫にして，**汗**に事えて無禮多く，**盛**は因りて而して之を間す。是に由りて**汗**の兄弟は相い嫌忌して浸す。

後涼 北涼［呂纂は楊軌を伐つ］涼の太原公の（呂）**纂**は兵を將いて**楊軌**を擊ち，**郭**□（麻の下に香、トン）は之を救い，**纂**は敗れて還る。

後涼 北涼［段業と蒙遜は西域を下す］**段業**は**沮渠蒙遜**をして西郡（武威の西、嶺の枢要、現・金昌市永昌県）を攻め使め，太守の**呂純**を執り以て歸る。**純**は，**光**之弟の子也。是に於いて晉昌太守の**王德**、敦煌太守の趙郡の**孟敏**は皆な郡を以て**業**に降る。**業**は**蒙遜**を封じて臨池侯と為し，**德**を以て酒泉太守と為し，**敏**を沙州刺史と為す。

●［魏の国号決定、崔宏登場］六月，丙子（１６日），魏王の**珪**は群臣に命じて國號を議す。皆な曰く、

「周、秦以前は，皆な諸侯より升りて**天子**と為り，因りて其の國を以て天下の號と為す。漢氏以來，皆な尺土之資無し。我が國家は百世相い承け，代の北に基を開き，遂に方夏（四方中夏）を撫有す，今宜しく代を以て號と為さん。」

黃門侍郎の**崔宏**は曰く、

「昔商人は常に厥居せず，故に殷、商と兩稱す。代は舊邦と雖も，其の命は惟れ新たなり，國に登る之妝（装い、続は初），已に更めて魏（孝武帝太元十年）と曰う。夫れ魏者，大名（左傳に、卜偃に曰く、魏は大名なり、戦国の

時魏は大國と為る、中國を神州と謂う）にして，神州之上國なり民（続は無し），宜しく故の如く魏と稱すべし。」
珪は之に従う。

後涼 北涼 南涼 西秦［楊軌、呂弘、段業などの複雑な攻防戦］**楊軌**は自ら其の衆を恃み，涼王の**光**と決戦せんと欲す，**郭**□（麻の下に香、トン）は毎に天道（未だ利あらず）を以て之を抑止す。涼の常山公の**弘**は張掖に鎮し，**段業**は**沮渠男成**及び**王徳**をして之を攻め使む。**光**は太原公の**纂**をして兵を将いて之を迎え使む。
楊軌は曰く、
「**呂弘**は精兵一萬，若し**光**と合わせば，則ち姑臧は益々強く，取る可からざらん矣。」
乃ち禿髪の**利鹿孤**と共に**纂**を邀え撃ち，**纂**と戦い，大いに之を破る(7-029p)。**軌**は**王乞基**（田胡）に奔る。
□（麻の下に香、トン）は性は褊急にして殘忍，士民の附く所と為さず，**軌**の敗れるを聞きて走り，西秦に降る。西秦王の**乾歸**は以て建忠將軍、散騎常侍と為す。

後涼 北涼［張掖攻防戦］**弘**は兵を引いて張掖を棄てて東に走り，**段業**は徙りて張掖に治し，將に**弘**を追撃せんとす。**沮渠蒙遜**は諫めて曰く、
「歸師は遏（とど）むる勿かれ，窮寇は追う勿かれは，兵家之戒（いましめ）也。」
業は従わず，大敗して而して還る，**蒙遜**を頼りて以て免かるる。**業**は西安（郡、張掖の東境）に城きずき，其の將の**臧莫孩**（ぞうばくがい）を以て太守と為す。**蒙遜**は曰く、
「**莫孩**は勇而して謀無く，進むを知りて退くを知らず。此くは乃ち之が為に塚（続は冢）を築く，城を築くに非ざる也！」
業は従わず，**莫孩**は尋いで**呂纂**の破る所と為る。

【蘭汗を殺して慕容盛立つ】

▲［慕容盛が太原王の奇の挙兵を仕掛ける］燕の太原王の**奇**は，**楷**之子，**蘭汗**之外孫也，**汗**は亦た殺さず，以て征南將軍と為し，入りて長樂王の**盛**を見るを得る。**盛**は潜かに**奇**をして逃げ出でて兵を起こさ使む。**奇**は建安に兵を起こし，衆は數千に至り，**汗**は**蘭堤**を遣わして之を討たしむ。**盛**は**汗**に謂って曰く、
「**善駒**（奇の字）は小兒にして，未だ能く此れを辦ぜず，豈に其の名に假托して內應を為さんと欲する者有らざる乎！太尉（蘭汗が蘭堤を任命）は素より驕り，信じ難し，宜しく委ねるに大衆を以てすべからず。」（胡三省曰く、蘇武言える有り、木必ず先ず蠹（きくいむし）して然る後に蟲これを生ず、人必ず先ず疑うて然る後に讒これに入ると、蘭汗は凶逆にして、兄弟自ら相嫌忌す、故に慕容盛はこれを間して以て其の智を奮い君父の讎を報いるを得たりと）
汗は之を然りとし，**堤**の兵を罷め，更に撫軍將軍の**仇尼慕**を遣わして兵を将いて**奇**を討たしむ。

▲［蘭汗の兄弟の分裂抗争］是に於いて龍城は夏より雨ふらず秋七月に至り，**汗**は日々燕の諸廟及び**寶**の神座に詣りて頓首して禱請し，罪を**蘭加難**に委ねんとす。**堤**及び**加難**は之を聞き，怒り，且つ誅されるを懼れる。乙巳（１５日），相い與に所部を帥いて**仇尼慕**の軍を襲い，之を敗る。**汗**は大いに懼れ，**太子**の**穆**を遣わして兵を将いて之を討たしむ。**穆**は**汗**に謂って曰く、
「**慕容盛**は，我之仇讎（きゅうしゅう）なり，必ず**奇**と相い表裡せん。此れ乃ち腹心之疾（やまい）にして，養う可からざる也，宜しく先ず之を除かん。」
汗は**盛**を殺さんと欲し，先ず引見し，之を察す。**盛**の妃は之を知り，密かに以て**盛**に告げ，**盛**は疾と稱して出でず，**汗**は亦た止めて殺さず。

▲［慕容盛は蘭汗一族の誅殺］**李旱**、**衛雙**、**劉忠**、**張豪**、**張真**は，皆な**盛**の素より厚き所也，而るに**穆**は引いて以て腹心と為し，**旱**、**雙**は出入して**盛**の所に至るを得，潜かに**盛**と謀を結ぶ。丁未（１７日），**穆**

は**堤**、**加難**等を撃ち，之を破る。庚戌（２０日），將士を饗し，**汗**、**穆**は皆な醉い，**盛**は夜廁に如き，因りて垣を逾えて東宮に入り，**旱**等と共に**穆**を殺す。時に軍は未だ嚴を解かず，皆な聚りて**穆**の捨に在り，**盛**の出でるを得るを聞き，呼躍して先を爭い，**汗**を攻め，之を斬る。**汗**の子の魯公の**和**、陳公の**揚**は分かれて令支、白狼に屯し，**盛**は**旱**、**真**を遣わして襲いて之を誅す。**堤**、**加難**は亡げ匿れ，捕えるを得，之を斬る。是に於いて內外は帖然（安定）とし，士女は相い慶す。**宇文拔**（遼西より来る）は壯士數百を帥いて來り赴き，**盛**は**拔**を拜して大宗正と為す。

▲［慕容盛は敢えて即位せず］辛亥（２１日），太廟に告げ，令して曰く、

「五祖（慕容掛歸、廆、皝、儁、垂）之休と，文武之力に賴り，宗廟社稷は幽かに而して復た顯かなり。**(7-030p)** 獨り孤が眇眇之身を以て天を同じくせざる之責を免かれず，凡そ臣民在りて皆な明目を當世に明かにするを得たり。」

因りて大赦し，改元して建平とする。**盛**（字は道運、寶の庶長子）は謙（謙讓）して敢えて尊號を稱せず，**長樂王**を以て統制を攝行す。諸王は皆な降して公を稱し，東陽公の**根**を以て尚書左僕射と為し，**衛倫**、**陽璆**、**魯恭**、**王騰**を尚書と為し，**悅真**を侍中と為し，，**陽哲**を中書監と為し，**張通**を中領軍と為し，自餘の文武は各々舊位に復す。改めて**寶**に謚して**惠閔皇帝**と曰い，廟號を**烈宗**とす。初め，太原王の**奇**は建安に舉兵し，南（中國）、北（鮮卑）之民は翕然として之に從う。**蘭汗**は其の兄の子の**全**を遣わして**奇**を討たしめ，**奇**は擊ちて之を滅ぼし，匹馬は返らず，進みて乙連に屯す。**盛**の既に**汗**を誅するや，**奇**に命じて兵を罷めしむ。**奇**は丁零の**嚴生**、烏桓の**王龍**之謀を用い，遂に命を受けず，甲寅（２４日），兵三萬餘人を勒して進みて橫溝に至り，龍城を去ること十里。**盛**は出擊し，大いに之を破り，**奇**を執り而して還り，其の黨百餘人を斬り，**奇**に死を賜わり，**桓王**（慕容恪）之嗣は遂に絕える。群臣は固く尊號を上るを請い，**盛**は許さず。

●［魏は平城遷都、国家の体裁を取り始める］魏王の**珪**は平城に遷都し（代の尹、司州を置く），始めて宮室を營し，宗廟を立て，社稷を立てる。宗廟には歲に五祭あり，分、至及び臘（春分秋分、夏至冬至、十二ヶ月）を用いる。

【桓玄・殷仲堪・楊佺期の挙兵】

■［桓玄、殷仲堪、庾楷は王恭を盟主とする］**桓玄**は廣州（刺史）と為るを求める。會稽王の**道子**は**玄**を忌み，荊州に居ら使むを欲せず，其の欲する所に因り，**玄**を以て督交、廣二州軍事、廣州刺史と為す。**玄**は命を受けて而して行かず。豫州（歷陽に治す）刺史の**庾楷**は**道子**の其の四郡を割きて**王愉**に之を督せ使むを以て，上疏して言く、

「江州（尋陽に治す）は內地，而して西府（歷陽、京口は北府）は北の寇戎を帶びる，應に**愉**に督を分け使むべからず。」

朝廷は許さず。**楷**は怒り，其の子の**鴻**を遣わして**王恭**を說かしめて曰くね

「**尚之**の兄弟は復た機權を秉り，（勢いは）**國寶**に過ぎ，朝威を假りて方鎮を削弱せんと欲し，前事に懲艾するに，禍と為して測らず。今其の謀議の未だ成らずに及び，宜しく早に之を圖るべし。」

恭は以て然ると為し，以て**殷仲堪**、**桓玄**に告げる。**仲堪**、**玄**は之を許し，**恭**を推して盟主と為し，期を刻して同じく京師に趣かんとす。

■［挙兵を巡る駆け引き］時に內外は疑い阻み，津の邏（揚子江の監視署）は嚴に急なり，**仲堪**は斜絹を以て書と為し，箭幹（矢柄）の中に內れ，鏑を合わせて之に漆でふうじ，**庾楷**に因りて以て**恭**に送る。**恭**は書を發し，絹文角戾（くしゃくしゃになる）し，復た**仲堪の**手書と辨じる能わず，**楷**が詐りて之を為ると疑い，

且つ謂えらく、
「**仲堪**は去年（前巻にあり）已に期を違えて赴かず，今は必ず動かず」
乃ち期に先だって舉兵す。**(7-031p)**の**劉牢之**は諫めて曰く、
「將軍は，國之元舅、**會稽王**は，**天子**の叔父也。**會稽王**は又た國に當たりて政を秉り尚（続は暠）に將軍の為には其の愛する所の**王國寶**、**王緒**を（殺）戮し（前巻にあり），又た**王廞**に書を送り，其の深く將軍に伏すること已に多し矣。この頃授（続、援×）任する所，未だ允愜（妥当）ならずと雖も，亦た大失に非ず。**庾楷**の四郡を割き以て**王愉**に配すとも，將軍に於いて何の損あるや！晉陽之甲は，豈に數々興こす可き乎！」
恭は從わず，上表して**王愉**、**司馬尚之**兄弟を討たんと請う。
■<u>［道子と庾楷の旧縁］</u>**道子**は人をして**楷**を說か使めて曰く、
「昔我は一に卿と，恩は骨肉（楷は先に王國寶に属し、同党なり）の如く，帳中之飲（太元 21 年楷が難に赴く時の事）は，結帶之言，親と謂う可し矣。卿は今舊交を棄て，新援を結び，**王恭**の疇昔（むかし）の陵侮之恥（王恭は元舅の親を以て、風神簡貴、志気方厳に、庾楷を視ること甚だ蔑如たり。故に道子以て楷を陵侮すと為す）を忘れる乎！若し體を委ねて而して之に臣たらんと欲し，**恭**をして志を得使めば，必ず卿を以て反覆之人と為さん，安んぞ肯て深く相い親信せん！首身（首と身の繋がること）すら且つ保つ可からず，況んや富貴を乎！」
楷は怒りて曰く、
「**王恭**は昔山陵（21 年にあり）に赴き，**相王**（道子）憂懼して計らず，我は事の急なるを知り，尋いで兵を勒して而して至り，**恭**は敢えて發せず。去年之事は，我は亦た命を俟ちて而して動かず。我は**相王**に事え，相い負く者無し。**相王**は**恭**を拒む能わず，反って**國寶**及び**緒**を殺し，爾りしより已來（以来），誰か敢えて復た**相王**の為に力を盡くす者あるや！**庾楷**は實に百口を以て人の屠滅を助ける能わず。」
時に**楷**は已に**恭**の檄に應じ，正に士馬を征（続は徴）す。信（使者）返り，朝廷は憂懼し，內外戒嚴す。
■<u>［會稽の世子元顯は神武］</u>會稽の世子の**元顯**は**道子**に言って曰く、
「前に**王恭**を討たず，故に今日の難有り。今若し復た其の欲するに從はば，則ち太宰（時に道子は太宰）之禍は至らん矣。」
道子は為す所を知らず，悉く事を以て**元顯**に委ね，日々醇酒を飲みて而して已む。**元顯**は聰警にして，頗る文義に涉り，志氣は果鋭にして，安危を以て己が任と為す。之に附會する者は，
「**元顯**は神武にして，明帝之風有り」
と謂う。
■<u>［殷仲堪は軍事を楊佺期に全面委任］</u>**殷仲堪**は**恭**の舉兵を聞き，自ら去歲の期に後れるを以て，乃ち兵を勒して發に趣く。**仲堪**は素より將為るを習わず，悉く軍事を以て南郡の相の**楊佺期**兄弟に委ね，**佺期**をして舟師五千を帥いて前鋒と為さ使む。**桓玄**は之に次ぎ，**仲堪**は兵二萬を帥い，相い繼いで而して下る。**佺期**は其の先漢の太尉の**震**より父の**亮**に至るまで，九世皆な才德を以て著名なるを以て，其の門地を矜り，謂えらく江左に及ぶ莫しと。以て**王珣**に比する者有るすら，**佺期**は猶ほ恚恨する。而して時流（時輩）は其の晚く江を過ぎ（佺期及び父の亮は晋に使えるのが王紗り遅い），婚宦は類を失し（佺期、亮は武を以て仕え、倜荒と婚を為すので、類を失とす），**佺期**及び兄の**廣**、弟の**思平**、從弟の**孜敬**は皆な粗（続は麤）獷（荒々しい）なるを以て，毎に之を排抑す。**佺期**は常に慷慨し切齒し，事際に因りて以て其の志を逞しくせんと欲し，故に亦た**仲堪之**の謀に贊成す。
■八月，**佺期**、**玄**は湓口（湓浦口、晋人城を築く、江西省潯陽道徳化県、現・九江市）に奄至す。**王愉**は備え無く，**(7-032p)**惶遽して臨川（江西省豫章道臨川県、現・撫州市臨川区）に奔り，**玄**は偏軍を遣わして追いて之を獲る。

▲［燕の人事］燕は河間公の**熙**を以て侍中、車騎大將軍、中領軍、司隸校尉と為し，城陽公の**元**を衛將軍と為す。**元**は，**寶**之子也。又た**劉忠**を以て左將軍と為し，**張豪**を後將軍と為し，並びて**慕容氏**の姓を賜る。**李旱**を中常侍、輔國將軍と為し，**衛雙**を前將軍と為し，**張順**を鎮西將軍、昌黎（龍城に都したので、昌黎太守を尹とした、現・秦皇島市昌黎県）の尹と為し，**張真**を右將軍と為す。皆な公に封じる。

▲乙亥（１５日），燕の歩兵校尉の**馬勤**等は反を謀り，伏して誅す。事は驃騎將軍の高陽公の**崇**、崇の弟の東平公の**澄**に連なり，皆な死を賜わる。

■［晋と南燕の対決］寧朔將軍（続、國×）の**鄧啟方**、南陽太守の**閻丘羨**は兵二萬を將して南燕を撃ち，南燕の中軍將軍の**法**、撫軍將軍の**和と**は管城（河南省開封道鄭県、現・鄭州市金水区）にて戰い，**啟方**等の兵は敗れ，單騎にして走りて免る。

●［北魏の支配制度整備］魏王の**珪**は有司に命じて封畿を正し，道裡を標し，權衡を平らかにし，度量を審かにせしむる。遣使して郡國を循行し，守宰の法あらざる者を舉奏せしめ，親ら之を考察黜陟す。

【桓玄の西軍が建康に迫る】

■［會稽王の道子に黄鉞］九月，辛卯（２日），會稽王の**道子**に黄鉞を加え，世子の**元顯**を以て征討都督と為し，衛將軍の**王珣**、右將軍の**謝琰**を遣わして兵を將いて**王恭**を討たしめ，譙王**の尚之**には兵を將いて**庾楷**を討たしむ。

▲乙未（６日），燕は東陽公の**根**を以て尚書令と為し，**張通**を左僕射と為し，**衛倫**を右僕射と為し，**慕容豪**を幽州刺史と為し，肥如（直隸省津海道盧龍県、現・秦皇島市盧竜県北部）に鎮ぜしむ。

■［庾楷は破れ、桓玄は台頭］己亥（１０日），譙の**王尚之**は大いに**庾楷**を牛渚（安徽省蕪湖道當塗県、現・馬鞍山市当塗県の淵の名、景勝の地、五彩石を産し采石磯）に破り，**楷**は單騎にして**桓玄**に奔る。會稽王の**道子**は**尚之**を以て豫州刺史と為し，弟の**恢之**を驃騎司馬、丹楊尹と為し，**允之**を吳國内史と為し，**休之**を襄城（元帝は江を渡り丹陽郡春穀県に襄城郡を置く）太守と為し，各々兵馬を擁せしめ以て己が援けと為す。乙巳（１６日），**桓玄**は大いに官軍を白石（安徽省安慶道巢県、現・合肥市巢湖市）に破る。**玄**と**楊佺期**は進みて横江に至り，**尚之**は退き走り，**恢之**の領する所の水軍は皆な沒す。丙午（１７日），**道子**は中堂に屯し，**元顯**は石頭を守り，己酉（２０日），**王珣**は北郊を守り，**謝琰**は宣陽門（建康城の南西門）に屯し，以て之に備える。

■［元顯は王恭の爪牙の劉牢之に謀略］**王恭**は素より才地（才能と地位）を以て物を陵ぎ，既に**王國寶**を殺し，自ら威の行なわざる無しを謂い，**劉牢之**を仗りて爪牙と為し、而して但だ部曲の將を以て之を遇す。**牢之**は其の才を負い，深く恥恨を懷く。**元顯**は之を知り，廬江太守の**高素**（北府の将）を遣わして**牢之**を説かしめ，**恭**に叛か使め，事成れば即ち**恭**の位號を以て之に授けんと許す。又た**道子**の書を以て**牢之**に遺わし，為に禍福を陳ず。**牢之**は其の子の**敬宣**に謂って曰く、

「**王恭**は昔**先帝**の大恩を受け，今**帝**の舅と為り，王室を翼戴する能わず，數々舉兵して京師に向い，吾は**恭**之志を審かにする能わず，事捷つ之日，必ず能く**天子**は**相王**（司馬道子）之下と為る乎？**（7-033p）**吾は國の威靈を奉じ，順を以て逆を討たんと欲す，何如や？」

敬宣は曰く、

「朝廷は成、康之美無しと雖も，亦た幽、厲之惡の無し。而るに**恭**は其の兵威を恃みて，王室を暴蔑す。大人、親、骨肉に非ず，義は君臣に非ず，事を共にすること少時と雖も，意好は協せず，今日之を討つは，情義に於いて何有るや！」

■［裏切られた西軍・王恭の敗死］**恭**の参軍の**何澹之**は其の謀を知り，以て**恭**に告げる。**恭**は**澹之**の素より**牢之**と隙有るを以て，信ぜず。乃ち酒を置きて**牢之**を請い，衆中に於いて之を拝して兄と為し，精兵堅甲は，悉く以て之に配し，帳下督の**顔延**を帥いて前鋒と為さ使む。**牢之**は竹裡（江蘇省金陵道旬容県、現・鎮江市句容市）に至り，**延**を斬り以て降る。**敬宣**及び其の婿の東莞太守の**高雅之**を遣わして還りて**恭**を襲わしむ。**恭**は方に城を出て兵を曜（かがや）かし，**敬宣**は騎を縦ちて之を横撃し，**恭**の兵は皆な潰ゆ。**恭**は将に城に入りて都に遷（続は無し）らんとし，**雅之**は已に城門を閉める。**恭**は單騎にして曲阿に奔り，素より馬を習わず，髀（太股）中に瘡を生ず。曲阿の人の**殷確**は，**恭**の故吏也，船を以て**恭**を載せ，将に**桓玄**に奔らんとし，長塘湖（江蘇省蘇常道宜興県、現・無錫市宜興市）に至り，人の告げる所と為り，之を獲り，京師に送り，倪塘（江蘇省金陵道江寧県、現・南京市江寧区）に於いて斬る。**恭**は刑に臨み，猶ほ鬚鬢を理（おさ）め，神色は自若にして，臨（続は監）刑者に謂って曰く、

「我は人を信じるに暗し，此に至りし所以なり，其の本心を原（たず）ねれば，豈に社稷に忠ならず邪！但だ百世之下に**王恭**有るを知ら令めんとする耳。」

並びに其の子弟黨與は皆な死す。**劉牢之**を以て都督兗、表、冀、幽、并、徐、揚州、晉陵諸軍事と為し以て**恭**に代わらしむ。

■［西軍は建康に迫るも、弱点有り］俄に而して**楊佺期**、**桓玄**は石頭に至り，**殷仲堪**は蕪湖に至る。**元顯**は竹裡より馳せて京師に還り，丹楊尹の**王愷**等を遣わして京邑の士民數萬人を發して石頭に據り以て之を拒ましむ。**佺期**、**玄**等は上表して**王恭**を理（おさ）め，**劉牢之**を誅するを求める。**牢之**は北府之衆を帥いて馳せて京師に赴き，新亭に軍す。**佺期**、**玄**は之を見て色を失ない，軍を蔡洲（江蘇省金陵道江寧県の西大江の中、現・南京市江寧区）に回す。朝廷は未だ西軍の虚實を知らず，**仲堪**等は衆數萬を擁し，郊畿に充斥（充ち塞がる）し，内外は憂逼す。

■［桓修の西軍籠絡戦術を実行］左衛將軍の**桓修**は，**沖**之子也，**道子**に言って曰く、

「西軍は說き而して解く可き也，**修**は其の情を知る矣。**殷**、**桓**之下は，專ら**王恭**を恃みしが，**恭**は既に破滅し，西軍は（気は）沮（はば）んで恐れる。今若し重利を以て**玄**及び**佺期**に啖（くら）（続は啗）わせば，二人は必らず内に喜ばん。**玄**は能く**仲堪**を制し，**佺期**は戈を倒して，**仲堪**を取ら使む可し矣。」

道子は之を納れ，**玄**を以て江州刺史と為す。**郗恢**を召して尚書と為し，**佺期**を以て**恢**に代わりて都督梁、雍、秦三州諸軍事、雍州刺史と為す。**修**を以て荊州刺史と為し，權（かり）に左衛の文武（左衛将軍府の僚属部曲）を領して鎮に之かしめ，又た**劉牢之**をして千人を以て之を送ら令む。**仲堪**を黜（しりぞ）けて廣州刺史と為し，**仲堪**の叔父の太常の**茂**を遣わして詔を宣し，**仲堪**に敕して軍を回（まわ）さしむ。**(7-034p)**

●**張驤**（烏桓、燕を奉ずること 105 巻孝武帝太元九年にあり、魏に帰するは前巻元年にあり）の子の**超**は三千餘家を收合して南皮（直隸省津海道南皮県、現・滄州市南皮県）に據し，自ら烏桓王と號し，諸郡を抄掠す。魏王の**珪**は**庾岳**に命じて之を討つ。

南涼［楊軌など嶺南は禿髪烏孤に降る］**楊軌**は廉川（甘肅省西寧道碾伯県、現・青海省海東市樂都区、莊浪の界に近し）に屯し，夷、夏を收集し，衆は萬餘に至る。**王乞基**は**軌**に謂って曰く、

「**禿髪氏**は才は高く而して兵は盛ん，且つ**乞基**之主也，之に歸するに如かず。」

軌は乃ち遣使して西平王の**烏孤**に降る。**軌**は尋いで羌酋の**梁饑**の敗る所と為り，西に零海（青海）に奔（続は犇）りて，乙弗鮮卑を襲い而して其の地に據る。**烏孤**は群臣に謂って曰く、

「**楊軌**、**王乞基**は誠を我に歸す，卿等は速かに救わずんば，羌人の覆す所と為さ使めん，**孤**は甚だ之を愧（は）

じる。」
平西將軍の**渾屯**は曰く、
「**梁饑**は經遠の大略無く，一戰して擒にす可き也。」
饑は進みて西平（甘肅省西寧道西寧県、現・西寧市城中区）を攻め，西平人の**田玄明**は太守の**郭幸**を執りて而して之に代わり，以て**饑**を拒み，子を遣わして**烏孤**の質と為す。**烏孤**は之を救わんと欲し，群臣は**饑**の兵強きを憚り，多く以て疑いと為す。左司馬の**趙振**は曰く、
「**楊軌**は新たに敗れ，呂氏は方に強く，洪池（甘肅省甘涼道武威県東南、現・武威市）以北は，未だ冀う可からざる也。嶺南（洪池嶺の南）の五郡（廣武・西平・樂都・澆河・湟河），庶い幾くは取る可し。**大王**若し開拓之志無ければ，**振**は敢えて言わず。若し四方を經營せんと欲せば，此の機は失う可からざる也。羌をして西平を得せ使めば，華、夷は震動し，我之利に非ざる也。」
烏孤は喜びて曰く、
「吾は亦た時に乗じて功を立てんと欲す，安んぞ能く坐して窮谷（塞外にあり）を守らん乎！」
乃ち群臣に謂って曰く、
「**梁饑**が若し西平を得，山河を保據すれば，複た製（続は制）す可からざるなり。**饑**は驍猛と雖も，軍令は整わず，破り易き也。」
遂に進みて**饑**を撃ち，大いに之を破る。**饑**は退きて龍支堡（甘肅省蘭山道皐蘭県、現・蘭州市皐蘭県）に屯す。**烏孤**は進攻し，之を抜き，**饑**は單騎にして澆河（吐谷渾の地、甘肅省西寧道巴戎・循化・貴徳の地、故城は黄河南岸の貴徳県にあり、現・青海省海東市化隆回族自治県）に奔り，俘斬は數萬，**田玄明**を以て四平内史と為す。樂都太守の**田瑤**、湟河太守の**張禕**、澆河太守の**王稚**は皆な郡を以て降り，嶺南の羌、胡の數萬落は皆な**烏孤**に附く。
西秦西秦王の**乾歸**は秦州牧の（乞伏）**益州**、武衛將軍の**慕兀**、冠軍將軍の**翟瑁**を遣わして騎二萬を帥いて吐谷渾を伐たしむ。

▲［燕の慕容盛は即位、太妃の丁氏を助ける］冬，十月，癸酉（１４日），燕の群臣は復た尊號を上り，丙子（１７日），長樂王の**盛**は始めて**皇帝**に即位し，大赦し，**皇后**の**段氏**を尊して**皇太后**と曰い，太妃の**丁氏**を**獻莊皇后**と曰う。初め，**蘭汗**之國に當たる也，**盛**は燕主の**寶**に從いて出でて亡げ，**蘭妃**は**丁后**に奉事して愈々謹む。**汗**の誅せらるるに及び，**盛**は妃が從坐に當たるを以て，之を殺さんと欲す。**丁后**は妃が保全之功有るを以て，固く之を爭い，免かるるを得，然るに終に**后**と為らず。**(7-035p)**

【西軍の混乱と収拾】

■（東晉は）大赦す。
■［朝廷と西軍の和解なる、桓修は弾劾される］**殷仲堪**は（廣州に移すの）詔書を得，大いに怒り，**桓玄**、**楊佺期**を趣して進軍す。**玄**等は朝命を喜び，之を受けんと欲し，猶豫して未だ決せず。**仲堪**は之を聞き，遽に蕪湖より南に歸り，遣使して蔡洲の軍士に告諭して曰く、
「汝ら輩は各々自ら散じ歸らざれば，吾は江陵に至り，盡く汝が餘口（蔡洲の軍、余す所の家族、江陵にあり）を誅さん。」**佺期**の部將の**劉系**は二千人を帥いて先ず歸る。**玄**等は大いに懼れ，狼狽して西に還り，**仲堪**を追いて尋陽に至り，之に及ぶ。**仲堪**は既に職を失い，**玄**等に倚りて援と為し，**玄**等は亦た**仲堪**の兵に資り，内相が疑い阻むと雖も，勢いは合せざるを得ず。乃ち子弟を以て交々質（人質交換）とし，壬午（２３日），尋陽に盟して，俱に朝命を受けず，連名して上疏し**王恭**の理を申し，**劉牢之**及び譙王（司馬）**尚之**の誅を求

め，並びに**仲堪**の罪無くして，獨り降黜（降格）を被るを訴える。朝廷は深く之を憚り，內外は騒然とす。乃ち復た**桓修**を罷め，荊州を以て**仲堪**に還し，優詔して慰諭し，以て和解を求め，**仲堪**等は乃ち詔を受ける。御史中丞の**江績**は**桓修**を劾奏す、

「專ら身の計を為し，朝廷を疑い誤まてり（江州雍州を分けて桓玄・楊佺期に授けて、自ら荊州を取る事）」

と。詔して**修**の官を免ず。

■［桓玄と殷仲堪、楊佺期の相互不信］初め，**桓玄**は荊州に在り，為す所豪縦なり。**仲堪**の親黨は皆な**仲堪**に之を殺すを勸め，**仲堪**は聽かず。尋陽に在るに及び，其の聲地（威聲門地）に貸り，**玄**を推して盟主と為し，**玄**は愈々自ら矜倨す。**楊佺期**は人と為りは驕悍にして，**玄**は毎に寒士を以て之に裁す。**佺期**は甚だ恨み，密かに**仲堪**を說いて、**玄**は終に患いに為らんと以てし，壇所に於いて之を襲わんと請う。**仲堪**は**佺期**の兄弟の勇健を忌み，既に**玄**を殺せば，複た製（続は制）す可からざらんを恐れ，苦して之を禁ず。是に於いて各々鎮する所に還る。**玄**は亦た**佺期**之謀を知り，陰かに**佺期**を取る之志有り，乃ち夏口に屯し，始安（郡、廣西省桂林道臨桂県、現・桂林市）太守の濟陰の**卞范之**を引いて長史と為し以て謀主と為す。是の時，詔書は獨り**庾楷**を赦さず，**玄**は**楷**を以て武昌太守と為す。

■［西軍を阻んだ郗恢は殷仲堪に謀殺される］初め，**郗恢**は朝廷の為に西軍を拒み，**玄**が未だ江州を得ず，**恢**が雍州を奪わんと欲し，**恢**を以て廣州と為す。**恢**は之を聞き，懼れ，衆に詢り，衆は皆な曰く、

「**楊佺期**の來たる者，誰か力を戮くさざらん。若し**桓玄**來たらば（桓氏は世々楚に居り、衆は畏れる），恐らくは與に敵と為り難し。」

既に而して**佺期**が己に代わるを聞き，乃ち**閭丘羨**（時に南陽太守、雍の部族）と兵を阻んで之を拒まんと謀る。**佺期**は之を聞き，聲言す、

「**玄**來たりて汭に入り，**佺期**を以て前驅と為す。」

恢の衆は之を信じ，風を望みて皆な潰え，**恢**は降を請う。**佺期**は府に入り，**閭丘羨**を斬り，**恢**を放ちて都に還し，楊口に至り，**殷仲堪**は陰かに人をして之，及び其の四子を殺さ使め，群蠻の殺す所と託言す。

西秦西秦の**乞伏益州**は吐谷渾王の**視羆**と度周川（四川省西川道松潘県、現・アバ・チベット族チャン族自治州松潘県）に於いて戰い，**視羆**は大敗し，走りて白蘭山を保ち，子の**宕豈**を遣わして西秦に質と為し以て和を請い，西秦王の**乾歸**は宗女を以て之の妻とする。

後涼涼の建武將軍の**李鸞**は興城（甘肅省蘭山道導河県、現・臨夏回族自治州臨夏市）を以て**禿髪烏孤**に降る。**(7-036p)**

■十一月，琅邪王の**德文**を以て衛將軍、開府儀同三司と為し，征虜將軍の**元顯**を中領軍と為し，領軍將軍の**王雅**を尚書左僕射と為す。

●［北魏の永式］辛亥（２３日），魏王の**珪**は尚書吏部郎の**鄧淵**に命じて官制を立て，音律を協せしめ，儀曹郎の清河の**董謐**に禮儀を制せしめ，三公郎の**王德**に律令を定めしめ，太史令の**晁崇**に天象を考さしめ，吏部尚書の**崔宏**をして總じて而して之を裁さしめ，以て永式と為す。**淵**は，**羌**（鄧羌は符秦の名将）之孫也。

南涼**楊軌**、**王乞基**は戸數千を帥いて自ら西平王の**烏孤**に歸す。

●十二月，己丑（３１日?元嘉暦一月２日），魏王の**珪**は**皇帝**に即位し，大赦し，改元して天興とす。朝野に命じて皆な髪を束ね帽を加えしむ。遠祖の**毛**以下二十七人を追尊して皆な**皇帝**と為す。六世の祖**力微**に謚して**神元皇帝**と曰い，廟號を**始祖**とす。祖の**什翼犍**を**昭成皇帝**と曰い、廟號を**高祖**とす。父の**寔**を**獻明**

皇帝と曰う。魏之舊俗は，孟夏に天及び東廟を祀り，季夏に衆を帥いて霜を陰山に卻（続は却）け，孟秋に天を西郊に祀る。是に至り，始めて古制に依仿し，郊廟朝饗の禮樂を定め，然るに惟だ孟夏に天を祀るを親ら行い，其の餘は多く有司が事を攝す。又た**崔宏**の議を用い，自ら**黄帝**之後，土德を以て王と謂う。六州二十二郡の守宰、豪傑二千家を代都（平城）に徙し，東は代郡に至り，西は善無（山西省雁門道右玉県、現・朔州市右玉県）に及び，南は陰館（山西省雁門道朔県、現・朔州市朔城区）を極め，北は參合（現・ウランチャブ市涼城県）に盡き，皆な畿內と為し，其の外四方、四維に八部師を置き以て之を監す。

▲己亥（４１日?元嘉暦一月１２日），燕の幽州刺史の**慕容豪**、尚書左僕射の**張通**、昌黎尹の**張順**は謀反に坐して誅せらる。

■［琅邪人の孫泰の尸解伝説］初め，琅邪人の**孫泰**は妖術を錢唐の**杜子恭**に學び，士民は多く之を奉ず。**王珣**は之を惡み，**泰**を廣州に流す。**王雅**は**泰**を**孝武帝**に薦め，養性之方を知ると雲い召し還し，累官して新安太守に至る。**泰**は晉の祚の將に終わらんを知り，**王恭**之亂に因り，**恭**を討つを以て名と為し，兵衆を收合し，貨を聚めること巨億，三吳之人は多く之に從う。識者は皆な其の亂と為るを憂え，中領軍の**元顯**が之と善きを以て，敢えて言う者無し。會稽の內史の**謝輶**は其の謀を發き，己酉（５１日?元嘉暦一月２２日），會稽王の**道子**は**元顯**をして誘いて而して之，並びに其の六子を斬ら使む。兄の子の**恩**は逃げて海に入り，愚民は猶ほ**泰**を蟬蛻（蝉の抜け殻、尸解伝説、道教的）して死せずと以て為し，海中に就きて**恩**に資給す。**恩**は乃ち亡命を聚合して，百餘人を得，以て仇を復せんと謀る。

南涼西平王の**禿髮烏孤**は更に武威王を稱す。

仇池是の歲，**楊盛**は遣使して魏に附き，魏は**盛**を以て仇池王と為す。

令和２年７月 17 日　　完訳開始　　8626 文字
令和２年７月 19 日　　完訳終了　17062 文字
令和２年 11 月８日　　微修正　　17351 文字　現代地名追加
令和３年 12 月 24 日　　書下し終了 18028 文字